

第1学年 算数科学習指導案

日 時 令和4年10月14日（金） 公開授業 I
場 所 1年1組教室
児 童 1年1組 29名
指導者 中島 知恵子

1 単元名 13 ひきざん（東京書籍1年②P76～）

2 単元について

（1）教材について

本単元は、学習指導要領の数と計算領域の「減法計算」の学習を行う。減法計算はこれまでに1位数から1位数を引く計算や $13 - 3$ などの計算で、いずれも繰り下がりのない場合を学習してきた。また、第11単元「たしざん」では1位数に1位数を足して繰り上がりのある加法を学習している。ここではその逆の減法、すなわち11から18までの2位数から1位数を引いて、繰り下がりがある減法について学習する。繰り下がりのある計算はこれが初めてであり、減法計算の基礎として1学年の重要な単元である。また、2年生の筆算へと発展していく基礎として、単元を通して具体物を生かして減法の意味や仕組みなどについて理解を確実にしていくことが重要である。その際、既習事項を手掛かりにして、筋道を立てて考えることも大切にしていきたい。

本単元の減法の学習では、減加法と減々法が取り上げられている。どちらを主にして指導するかは、数の大きさに従い柔軟に対応できるようにすることを原則とするが、自分の考えやすい方法を選択する力も付けていきたい。

（2）児童について

本学級では、算数の学習に意欲的に取り組む児童が多い。概ね発表にも前向きで、自分の考えの根拠を話したり、友達の考えに付け足して話したりすることができるようになってきた。しかし、課題解決に向けて自力で筋道を立てて考えたり、自分の考えた方法を分かりやすく表現したりする力は、取り組みを始めたばかりで今後の課題である。

本単元に関わって「のこりはいくつ ちがいはいくつ」の被減数が10以内の減法計算については、9割の児童がよく理解できていた。また、ブロックを用いて求残・求補・求差の答えを求める操作を考えることも概ねできていた。しかし、数え足し、数え引きで計算を行う児童、具体物や指を使って計算する児童もおり、計算カードを用いて繰り返し計算練習を続けている。授業の中での自力解決では、個別の指導が必要な児童も見られる。

（3）指導について

本単元の指導に当たって、はじめに10のまとまりから減数を引く減加法で、繰り下がりのある計算の仕方を学習する。減加法の考え方と手順の理解を確実にするために、減数が6以上の計算の練習を十分にさせる。その後減数が小さい場合を取り上げ、減々法の考えも学ぶ。それぞれの

計算方法が有効な場面をおさえた上で、減数の大きさや児童の実態・思考に合わせて計算方法を選択し、幅のある計算ができるようにしたい。

その際にどちらの計算方法も、問題文からブロック・図・式・そしてまた問題文へと、これらの思考につながりや互換性をもたせて指導する。ブロック操作を図に表したり、図で考えたものをブロックで確かめたり、問題文を言葉の式に直して唱えながらブロック操作をしたりすることで、さらに理解を確かなものにした。また、それらを繰り返し練習することで、しだいに具体物がなくてもブロックや図のイメージが頭に浮かび、念頭操作で答えが出せるようにしていく。また本単元は、答えの求め方が一通りではないために、具体物や図を使って多様な考えを導きだしたり、それを発表する練習をしたりするのに適している。そのため、筋道を立てて考えたり分かりやすく説明したりする力も、この単元で育てていきたい。

単元を通して、手立て1では、既習問題との比較や絵から問題を考えさせたり、児童がイメージしやすい具体場面を設定したりするなどし、本時の課題を焦点化し、児童の意欲につなげていきたい。また手立て2では、ブロックや図などを使って意味理解を図りながら、計算の仕方を自分の言葉で説明できるようにしたい。

3 単元の目標

11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数の構成に着目し、11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

5 単元の指導計画と評価規準

小単元	時	目標	指導・支援	評価規準
1 3 1 9 の けい さん	1 本 時	◎ 11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法（減加法）を理解する。	<p><プロローグP76></p> <p>のこりのどんぐりはなんこ？</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の問題を解かせ、これまで学習してきた引き算のやり方を思い出させる。 <p>13-9のけいさんのしかたをかんがえよう。</p>	ア

			<p>手1：表現方法の引き出し → 既習との違いから本時の課題を捉えさせ、関心を高める。</p> <p>手2：表現の獲得・変換 → どこから減数を取ったか、既習の加減計算と関連付けて考えさせ、ブロック操作の仕方を3口の式に表す。</p>	
	2		<p>13-9のけいさんのしかたをせつめいしよう。</p> <p>手2：表現の獲得・変換 → ブロック操作をしながら言葉で説明させ、アレイ図やさくらんぼ計算に表す。</p>	イ
	3	◎ 前時までの学習を踏まえ、11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法（減加法）の理解を確実にする。	<p>14-8のようなけいさんのしかたをかんがえよう。</p> <p>手1：既習との違い → 前時に学習した13-9や12-9と14-8を見比べて、減数が9から8に変わったことを確認させる。</p> <p>手2：表現の獲得・変換 → ブロック操作をしながら言葉で説明させ、さくらんぼ計算に表す。</p>	イ
	4		<p>けいさんになれよう。</p> <p>手2：表現の獲得・変換 → 練習問題に挑戦し、計算の仕方を身に付けさせる。</p>	ア
12-3のけいさん	5	◎ 11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法（減々法）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。	<p>12-3のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> <p>手1：表現方法の引き出し → 具体物を提示することで関心を高め、日常生活の体験を想起させる。</p> <p>手2：表現の獲得・変換 → 減々法の計算の仕方を唱えながら、ブロック操作をさせる。</p>	イ
16-7のけいさん	6	◎ 11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算で減数を分解して計算する方法（減々法）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。	<p>16-7のようなけいさんのしかたをかんがえよう。</p> <p>手2：表現の獲得・変換 → 減加法でも減々法でも、自分が計算しやすい方法で考えさせる。</p>	アイ
かあどれんしゅう	7・8・9	◎ 減法の計算能力を伸ばす。	<p>いろいろなほうほうで、ひきざんのけいさんれんしゅうをしよう。</p> <p>手2：表現の獲得・変換 → 計算カードを使って、ゲーム形式で引き算に慣れさせる。</p>	アイ

まとめ	10	◎ 学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ価値付ける。	がくしゅうのまとめをしよう。	ウ
-----	----	--	----------------	---

6 本時の指導（1/10）

(1) 本時の目標

11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法（減加法）を理解する。

(2) 評価規準

評価規準	概ね満足できる	支援を要する児童への手立て
ア ブロック操作を通して、数の見方「10といくつ」や既習の加減計算を基にして計算の仕方を理解している。	ブロック操作を通して、10のまとまりから1位数をまとめて引けば答えを簡単に求められることが分かる。	ブロックのケースを使って、10のまとまりを意識できるようにする。

(3) 研究との関わり

手立て1：子どもたちの反応を予測し、表現を引き出すために


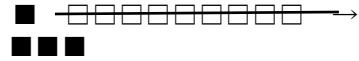
- ・ 既習との違いから本時の課題を捉えさせ、関心を高める。
- ・ 自分の考えをまとめたり確かめたりするために、ペア活動を取り入れる。

手立て2：表現方法の獲得・変換のために

- ・ どこから減数を引いたかを既習の加減計算と関連付けて考えさせ、計算の仕方を3口の式に表す。

(4) 展開

段階	学習内容と活動	教師の働きかけ（*）と評価（※）
導入 7分	<p>1 既習の減法計算について話し合い、振り返る。</p> <p>2 提示の絵から問題を考える。</p> <p>3 立式する。</p> <p>4 本時の課題を焦点化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>① 13－9の けいさんのしかたを かんがえよう。</p> </div>	<p>・ 本時の課題を明確にするため、被減数が10までの引き算、十いくつ－1位数（繰り下がりのない引き算）を学んだことを確認する。</p> <p>*手立て1：表現方法の引き出し</p> <p>・ 既習の計算と比較し、減数を1位数から引けないところが違うことに気付かせる。</p> <p>・ 13－9の答えを求める学習ではなく、答えの求め方（どのように9を取るか）の学習であることを意識付ける。</p>

<p>展</p> <p>開</p> <p>33分</p>	<p>5 学習の見通しをもつ。 ・方法の見通しを話し合う。</p> <p>6 自力解決をする。 ・ブロック操作をしながら考える。 ・早く終わった児童は、別の解き方を考える。</p> <p>① 13から一つずつ数えて引く。</p> <p>② ばらから3を引き、10のまとまりから残りの6を引く。</p> <p style="text-align: center;">  </p> <p>③ 10のまとまりからまとめて9を引く。</p> <p style="text-align: center;">  </p> <p>7 ペアで考えを交流する。</p> <p>8 全体で考えを交流する ・考えを発表し、既習と関連付ける。</p> <p>① 一つずつ引く。(かぞえひきほう)</p> <p>② ばらから3を引き、次に10から残りの6を引く。 (ひくひくほう) 式 $13 - 3 - 6 = 4$</p> <p>③ 13の10から9を引き、残りの1と3を合わせる。 (ひくたすほう) 式 $10 - 9 + 3 = 4$</p> <p>・共通点や相違点について話し合い、どの方法がよいか検討する。</p> <p>9 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>㊦ 13 - 9のけいさんは、13を10と3にわけて、10から9をまとめてとるとかんたんにできる。</p> </div>	<p>・既習の計算を使い、被減数を「10といくつ」に分けて考えればできそうだとすることに気付かせる。</p> <p>・ブロック操作を通していろいろな取り方を試し、より簡単に9を取るにはどこから取ればよいかを考えさせる。</p> <p>・ブロック操作した後に、自分なりに一番よい方法を決め、そのよさをペアに伝えられるように説明を考える。</p> <p>*手立て1：表現方法の引き出し ・自分の考えをまとめたり確かめたりするために、ブロックを操作しながら、ペアで考えを交流する。</p> <p>*手立て2：表現の変換 ・どこから9を取ったかを既習の加減計算と関連付けて考えさせ、計算の仕方を3口の式に表す。</p> <p>※ブロック操作を通して、数の見方「10といくつ」や既習の加減計算を基にして計算の仕方を理解している。(観察・発表)</p> <p>・数え引きや減々法も認めるが、ここでは一度に手際よく引けることに着目させ、減加法での計算方法を取り上げて、そのよさに気付かせる。</p>
<p>終末5分</p>	<p>10 学習の振り返りをする。</p> <p>11 次時の学習を知る。</p>	<p>・振り返りを通して、本時の学習内容についての理解を確実にする。</p>

(5) 板書計画

㊦ どんぐりが13こあります。
9こつかいました。どんぐりは
なんこ のこっていますか。

㊦ 13-9の けいさんの
しかたを かんがえよう。

㊦ 13-9のけいさんは、
13を10と3にわけて、
10から9をまとめてとると
かんたんにできる。

しき 13-9

〇ひとつずつとるのはたいへん

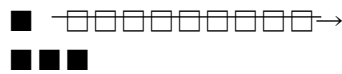
《ひくひくほう》



3から9はひけないから
13を10と3にわける。
13から3をひいて10
10からのこりの6をひいて4

しき 13-3-6=4

《ひくたすほう》



3から9はひけないから
13を10と3にわける。
10から9ひいて1
1と3で4

しき 10-9+3=4

しき 13-9=4

こたえ 4こ

9は10から
まとまとめて
とるとわかりや
すい。